

本学歯学部学生による授業評価の包括的解析

高田 豊¹⁾ 西原達次²⁾ 寺下正道³⁾ 鱒見進一⁴⁾
 自見英治郎⁵⁾ 牧 憲司⁶⁾ 森本泰宏⁷⁾ 福田仁一⁸⁾

抄録 九州歯科大学歯学部教員 79 名を対象に「学生による授業評価」(全 15 項目の質問)を行った。延べ 6,916 名の学生にアンケート用紙を配布し 5,187 枚を回収した(回収率 75%)。大半の学生は予習・復習をしておらず、約半数はシラバスを読んでいないが、8 割以上の学生が授業には前向きな態度で臨み、授業中にノートを取っており、7 割以上で出席状況や受講態度が良好であった。大部分の学生(約 6 割)が授業に対してたいへん満足~ほぼ満足と感じており、「あまり満足していない」と「不満」を合わせた 1 割よりも圧倒的に大多数であった。授業の総合的満足度においても 66%の学生がたいへん~かなり満足しており、満足していないものは 10%だけであった。一般教育、基礎歯学、臨床歯学、隣接医学別の群間比較では、学生の授業に臨む姿勢は隣接医学が良好で一般教育への姿勢が不良であった。学生による授業評価は臨床歯学で最も高く、一般教育で評価が低かった。教授・助教授・講師・助手の職種別の授業評価では、助手の評価が最もよく、教授と講師が悪く、助教授は中間であった。学年別の授業評価の比較では、3 年生が最もよく 2 年生が最も悪かった。授業の総合満足度は質問番号 1~14 の評価点数すべてと有意の関係が単回帰分析と重回帰分析で認められた。特に、質問 8, 10, 13, 14 と総合授業満足度の相関関係が強く、これらの質問項目の評価改善が総合授業満足度改善に重要と考えられた。

キーワード 授業, 教育, 歯学, 評価, 学生

緒 言

九州歯科大学では平成 16 年度から常勤の全教員を対象とした「学生による授業評価」を毎年行っている。個々の教員の評価結果については授業改善に役立てる目的で毎年各教員に報告してきた。また、平成 17 年度から、この学生による授業評価結果を教員個人業績評価の教育評価の一部として組み入れてきた。しかし、この「学生による授業評価」を大学全体として包括的な解析は行ってこなかった。わが国の歯学部では、本学の歯周病学小グループ問題解決型授業^{1,2)}、明海大学歯学部歯周病学講義³⁾、鶴見大学歯学部歯周治療学基礎実習⁴⁾、昭和大学歯学部高齢者歯科学チュートリアル⁵⁾、日本歯科大学病理

学講義⁶⁾のように個々の講座が各種の授業に対する「学生による授業評価」結果の解析を行い報告しているものが多い。しかし、北海道大学歯学部では大学全体で歯科基礎科目・歯科臨床科目の講義^{7,8)}と歯科臨床実習⁹⁾に関する学生による授業評価の包括的解析結果を報告している。この報告のなかで、臨床歯科系科目の評価の点数が基礎歯科系科目よりも高いことを示し⁷⁾、どの評価項目が授業の総合評価に貢献しているかを解析⁹⁾している。

本研究では歯科臨床科目、歯科基礎科目のほかに、一般教育科目と隣接医学科目を加えて総合的に比較検討した。また、教授、助教授、講師、助手の職種別評価と学年別評価を行った。さらに、これらの影響因子で補正した重回帰分析でどの評価質問項目が総合的授業満足度に関連が最も強いかを検討した。

対象および方法

本学歯学部で平成 18 年度に講義を行った常勤の全教員を対象に、教員自身に「学生による授業評価」を受けることを希望する授業科目と日時を 1 つだけ選択させた。評価当日は授業終了前にアンケートのための時間を設けて、表 1 に示すアンケート用紙(質問 1~15)とマー

¹⁾ 九州歯科大学健康増進学講座総合内科学分野
²⁾ 九州歯科大学健康増進学講座感染分子生物学分野
³⁾ 九州歯科大学口腔治療学講座齶歯歯髓疾患制御学分野
⁴⁾ 九州歯科大学口腔機能再建学講座顎口腔欠損再建学分野
⁵⁾ 九州歯科大学生命科学講座分子情報生化学分野
⁶⁾ 九州歯科大学機能育成制御学講座口腔機能発達学分野
⁷⁾ 九州歯科大学口腔診断学講座画像診断学分野
⁸⁾ 九州歯科大学口腔顎顔面外科学講座病態制御学分野
 平成 19 年 7 月 9 日受付
 平成 19 年 9 月 25 日受理